



岩国市
(1879～1946)

岩国市出身のマルクス経済学者。十四歳にして「吉田松陰」の思想に触れる。東京帝大（二十四歳）の頃から新聞や雑誌に投稿し注目を集めた。

ヨーロッパからの帰朝（三十六歳）後、「貧乏物語」を著し、その後も経済学者、ジャーナリストとして活躍。「資本論」など多くの著作を残した。

日本の激動期に、自らの新しい学説を曲げることなく、思想家として優れた才能を発揮するとともに、詩人、エッセイストとしての才に恵まれ、文学の領域でも貴重な存在だった。

（稻生 慧）

【主な著作】

『祖国を顧みて』（実業之日本社、大正4年）

『貧乏物語』（弘文堂、大正6年）

『マルクス主義経済学』（改造社、昭和5年）